

2分野4研究室の紹介

ネイチャーマネジメント分野

自然資源を活用し、持続可能で環境に配慮したツーリズムを含むビジネスを通じて地域活性化を試みる研究分野

環境情報 研究室

環境情報を活用し、持続可能な社会づくりを探求



地域観光 研究室

豊かな自然を活用した農林水産業と観光の連携を学ぶ



地域マネジメント分野

地域資源を活用し商品開発や事業化を通じたビジネス創造により地域産業の発展を研究する分野

企業経営 研究室

異業種・地域連携を通じて地域企業の発展に寄与する



農業創生 研究室

農林水産業における持続的な経営展開の方策を考える



環境情報研究室

環境情報を活用し、持続可能な社会づくりを探求

北海道オホツク地域は、世界自然遺産・知床をはじめとする豊かな自然環境が世界中の人々を魅了しています。この豊かな自然環境の保全と活用を考えることは、持続可能な社会づくりにつながっていますが、自然、経済、社会は相互に関連しており、SDGsとして国際社会共通の課題となっています。当研究室では、自然資源の価値の可視化や地域企業の環境経営の分析など、環境情報を活用して持続可能な社会づくりの実現に向けた研究に取り組んでいます。

教授

笹木 潤



地域産業の経済波及効果の分析
地域資源価値の見える化の研究

助教

坂田 圭子



企業グループの会計に関する研究
企業の財務分析とその手法に関する研究



卒業論文紹介

『背景と目的』

・北海道えりも町周辺に生息しているゼニガタアザラシは、個体数の増加とともに定置網のサケを中心とした漁業被害が深刻化している。

・しかしアザラシには、観光資源、地域生態系への基盤確立、資源としての利用などの生態系サービス（人類への恩恵）を有していると考えられる。

・アザラシと地域社会の共生を進めるにはアザラシの生態系サービスの価値評価が有用だろう。

・本研究は、ゼニガタアザラシを積極的に有効活用し「アザラシと地域社会の共生」を目指す基金（仮想設定）に対するWTP：支払い意思額を明らかにすることを目的とする。

アザラシと地域社会の共生を進める取り組みに対する経済的な価値評価の研究



アザラシの生態系サービス

『結論』

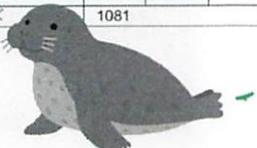
・分析の結果、支払い意思額の平均は2,555円、中央値は776円となった。

・基金への支払い意思に大きな影響を与える要因は、「ゼニガタアザラシを観察するツアーへの参加」「環境活動支援のための募金参加経験」「アザラシによる漁業被害を知っている」「漁業被害対策として駆除に反対」であった。

・観光資源としての活用を進め、漁業被害などの現状についての社会への発信が共生を進める上で重要である。

基金への支払い意思への影響

変数	係数	t値	p値
定数項	4.34	15.88	0.00
支払い額	-0.91	-23.73	0.00
世帯年収	0.09	2.68	0.01
環境活動支援のための募金参加経験	0.86	6.34	0.00
ゼニガタアザラシを観察するツアーへの参加	0.99	7.63	0.00
アザラシによる漁業被害を知っている	0.58	4.62	0.00
漁業被害対策としてアザラシの駆除に反対	0.47	4.09	0.00
サンプルサイズ	1081		



文理融合による湿地生態系サービス 価値の経済評価に関する研究

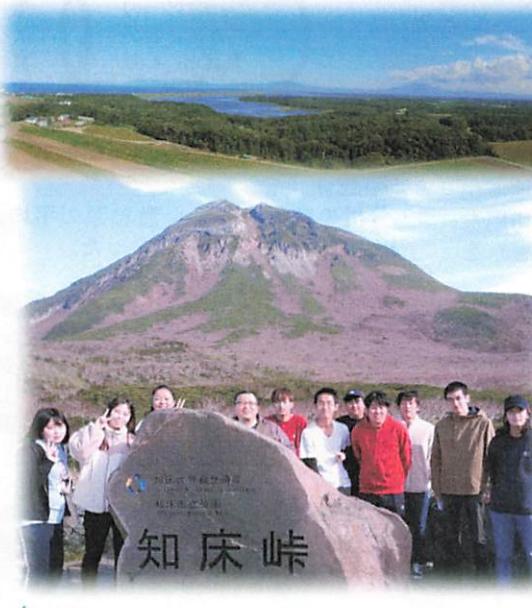
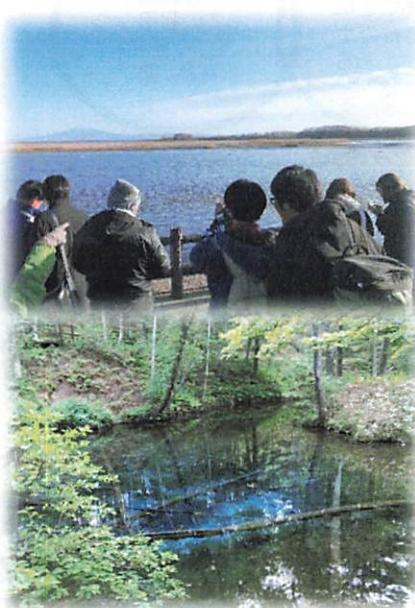


湿地の保全には、湿地が提供する価値を「わかりやすく」伝えることで社会的認識を高めることが必要です。湿地を保全することは、自然環境を維持するだけでなく、1次産業の基盤の提供、観光資源としての利用、地域文化を育むことにつながります。私たちは湿地からの有形無形の恵み（生態系サービス）を受け取っていて、それが地域の活性化につながっているのです。これから時代、環境をワイルドユースする方法を考えることがますます重要になってきます。

本研究では湿地が持っている価値の見える化を試みています。湿地の植物から動物まで網羅的に調べ、そこから生産される海産物の食品特性にも目を向けて、湿地が有する生態系サービスの価値を経済的に評価します。道の駅やトウフツ湖で観光客へのアンケート調査をおこなっています。

生態系サービスの機能

調整サービス	供給サービス
生態系が自然のプロセスを制御することから得られる恵み（大気の質の調節、気候の調節、水の調節、土壤侵食の調節、水の浄化と廃棄物の処理、疾病の予防、病害虫と雑草の抑制、花粉媒介、自然災害からの防護）	生態系から得られる財や製品（食料、繊維、バイオマス燃料、淡水、遺伝子資源、生化学物質・自然薬品・医薬品）
文化的サービス	基盤サービス
生態系から得られる非物質的な恵み（レクリエーションとエコツーリズム、倫理的価値）	他のサービスを維持するための自然プロセス（栄養塩循環、一次生産、水循環）



地域観光研究室

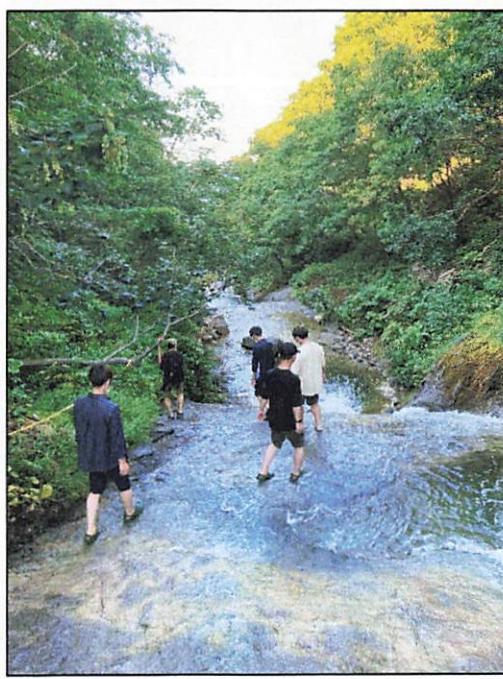
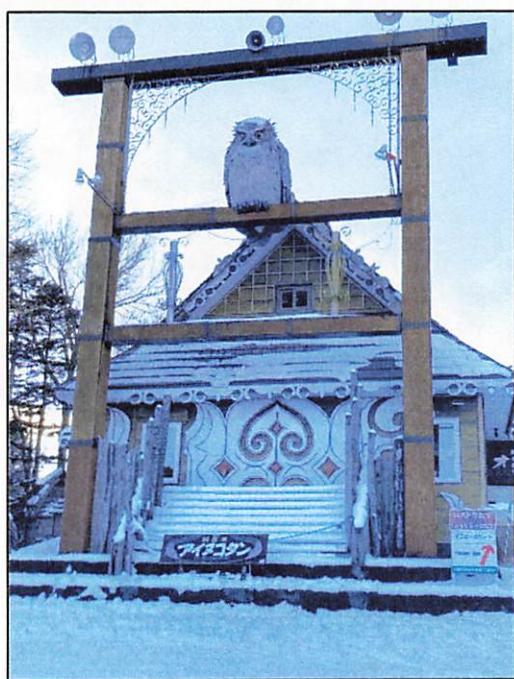
豊かな自然を活用した農林水産業と観光の連携を学ぶ

自然資源を活かしたツーリズムは、観光客に大きな感動を与えるとともに、地域活性化にも寄与します。また、北海道オホーツク地域は、豊富な自然資源をベースとした農林漁業が展開されていますが、農林漁業の魅力を地域内外に周知したり、地域の担い手の確保にむけた取り組みとして、各地においては農林漁業と観光の連携によるグリーンツーリズムやマリンツーリズムの推進に力を入れています。当研究室では、自然環境と調和したツーリズムビジネスの創出のほか、農林水産業と観光の連携にかかる研究を通じて、地域活性化に役立つ取り組みを実践します。

佐藤ゼミ（佐藤 史郎 教授）

〈主な研究テーマ〉

- ・自然と人間の関係を考える
- ・人間と動物の関係を考える
- ・アイヌ文化と観光を考える



研修@阿寒湖のアイヌコタン

研修@知床のカムイワッカ湯の滝

テキストの例

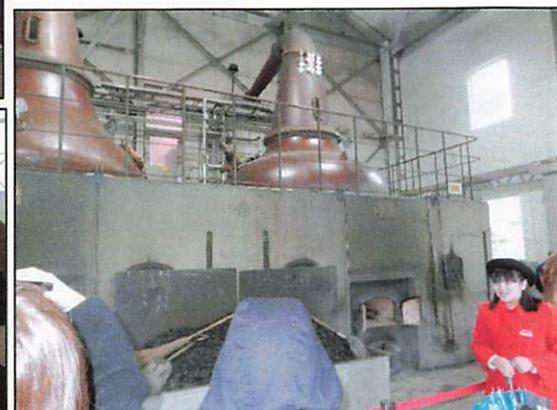
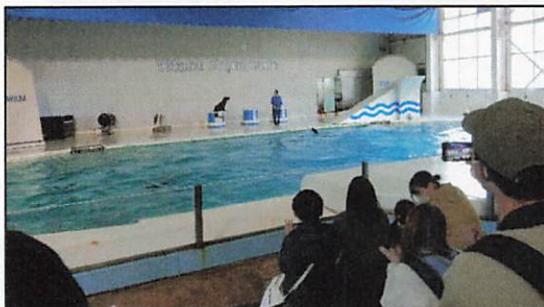
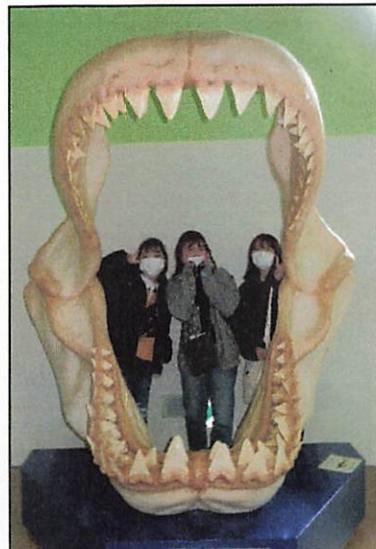
野村ゼミ（野村 比加留 准教授）

野村ゼミではマーケティングを研究しています。企業が展開するマーケティングはもちろんですが、地域活性化にマーケティングがどの様な役割を担えるのかといった研究をしています。また、それらに密接に関連する観光に関するマーケティングや地域ブランド、SDGsとマーケティングの関係などについて、特に力を入れて取り組んでいます。



〈主な研究テーマ〉

- ・地域活性化に資するマーケティングの役割
- ・観光に関するマーケティング
- ・地域ブランド
- ・SDGsとマーケティング



最近の卒業論文 題目例

- アニメ聖地巡礼における地域活性化のプロセス研究
- 釧網本線を観光資源とするツーリズムの考察
- 国内における昆虫食受容の現状及び動向に関する調査・研究
- 感覚マーケティングにおけるキャッチコピーの効果に関する考察
- 沖縄市の観光戦略に関する考察
- オーバーツーリズムと今後の観光に関する考察
- オホーツク地方におけるガイド業務による地域活性化に関する研究



企業経営研究室

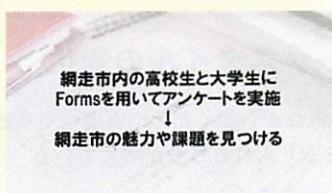
異業種・地域連携を通じて地域企業の発展に寄与する

地域企業の経営・管理・分析を行うためには、製品開発から流通、マーケティングにいたる一体的な取り組みを論理的に理解することが必要です。特に地域企業については、地域資源を活かした商品開発のみならず、異業種連携や地域連携（都市と地方の連携）などを通じた持続的な経営に向けた戦略が必要となります。当研究室では地域資源と風土を活用した新商品開発戦略や異業種連携、地域連携による地域企業の持続可能な発展を追究します。

【上田ゼミ】：上田智久教授

地域資源に着目した地域活性化を自分たちで考えよう！

地元高校生の視点を生かした地域活性化



網走市の住みやすさ	
住みやすい	120
住みにくい	61
その他	12
合計	183

住みやすい理由

- 自然環境がいい
- 日常生活に便利
- 人とのつながりがある
- 住み慣れている

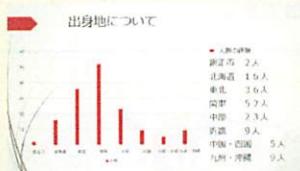
住みにくい理由

- 交通の便が悪い
- 大規模商業施設がない
- 商店街が衰退している
- 遊び場所が少ない

地元企業に密着した企業戦略の調査



大学生（よそ者）の視点を生かした地域活性化



研究した内容は他大学とゼミ交流会で報告＆ディスカッション

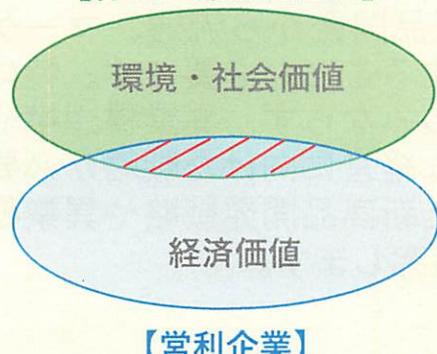
(京都平安女学院大学での様子)



【松村(広)ゼミ】：松村広志准教授

環境・社会課題への取り組みを通じて地域と企業の持続可能性UPを！

【行政・非営利組織】



【オホーツクの事例1】

北見バス×ヤマト運輸：

貨客混載によるCO₂排出減とバス運行収入増

【オホーツクの事例2】

北見木材×遠軽町など：

アカエゾマツの持続可能な利用によるピアノ部品製造



【小川ゼミ】：小川繁幸准教授

「農業×ファッション」で農家の新たな魅力表現にチャレンジ！

消費者が農産物に求めるモノ

農産物の魅力を消費者に伝える上では、単に「モノ」（サイズ、色味、糖度など）の情報だけでは不十分

「誰が」「どこで」「どのような方法」で作っているかという「ヒト」の情報まで求めている

農家のワークスタイルの変化

農家の中には、より楽しみながら働くための環境づくりとして、ファッションを取り入れるヒトが増えている

農業や農家のイメージ改革にむけて、カッコいい農家やカワイイ農家を意識して、「農業×ファッション」に取り組みはじめている農家が出てきた

農家の新たな魅力表現にチャレンジ

農林水産省が取り組む農業女子プロジェクトに参画し、アパレルメーカーと農業女子とコラボしながら、学生の価値観“Kawaii”を活かして、ワークウェアを開発



最近の卒業論文 題目例

- エゾシカの皮を利用した事業規模拡大の可能性
- 網走市における地域創生と生物産業学部の役割に関する一考察—地方大学の独自性とその魅力—
- 持続可能性からみた北海道オホーツク地域の木材加工業の現状と課題
- 青果のサプライチェーンにおける食品ロスへの取り組みに関する調査研究
- 農業の6次産業化の推進に向けた農家連携に関する研究
- スマートアグリによる農業振興に関する研究



農業創生研究室

農林水産業における持続的な経営展開の方策を考える



農林水産業においては担い手不足が深刻化しており、持続的な経営の展開に向けて、従来の農林業の枠にとらわれない新たなビジネスモデル（観光農園、農家レストラン・カフェ、輸出など）の創出や安定的な経営が展開できる経営者の育成が求められています。

当研究室では、持続的発展が可能な農林漁業の経営者育成と農林漁業をベースとした新たなビジネス創出や起業、地域の経営者、人材育成に関する研究を行っています。



范ゼミ (范 為仁 教授)

〈主な研究テーマ〉

- ・東アジア農業・農村の振興に立脚し、資本と農業の関係の視点から農業問題の本質を追究し、その解決の道を探ります！
- ・北海道オホーツク地域は豊かな自然環境があり、地域活性化と東アジア広域の農業・農村振興という幅広い視点から課題解決に取り組みます。



九州の研修先で土づくりのことを聞く



菅原ゼミ (菅原 優 教授)

〈主な研究テーマ〉

- ・農業をはじめとする一次産業の地域資源を活用した新商品・事業化による6次産業化や循環型社会における地域農業の資源循環に寄与する地域環境ビジネスを対象とした研究を行います。
- ・また、農業の担い手問題に対応した新規就農対策やビジネスモデルに関する研究を行います。



網走市観光課と連携したフィールドワーク



農と観光資源を活かしたツアー企画を検討



研修先の農業生産法人でディスカッション



研修先のまちづくり会社でヒアリング調査

最近の卒業論文 題目例

- 大規模水田作経営のスマート農業機械化一貫体系の課題に関する調査研究
- 水産資源の6次産業化と地域活性化に関する調査研究
- 新規就農支援の地域における取組の重要性に関する研究
- 新規就農者定着に向けた環境制御技術の導入に関する研究
- 物質循環の視点からみた有機農業の可能性に関する一考察
- 地域資源を活用した地域活性化に関する調査・研究
- 中山間地域における持続可能な農業と内発型地域活性化に関する調査研究

